



東京部会(第14回)

日時: 2008年7月29日(火)17:00-19:30

場所: 日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室

参加者: 加藤(日大)、中川(日大)、篠原(同志社大)、栗原(信州大)、猪瀬(弘前大)、鬼塚(ジャーナリスト)、阿部(城西国際大)、新井(都立西高)、高橋(桜修館中)、杉田(千葉西高)、中沖(清水書院)、梅窪(日本経済教育センター)、宮尾(国際大) [順不同]

【内容要旨】

1. 経済教室、年次大会、ワークショップなどについて以下の議論があった。

1)8月の大阪と東京での「夏休み経済教育」の準備に関しては、特に差し迫った8月4日と5日の大阪での経済教室について、プログラムのアウトラインと進行役の新井先生の「準備メモ」が配布され、いくつかの事項が確認された。その中のシンポジウムで取り上げる主な論点の例として、「大学からみた高校までの経済教育の問題点」、「教師や高校生がそれぞれ身につけるべき経済学の知識は」などいくつかのポイントが提示された。ただし実際の進め方は、参加者の質問を中心に進めることも確認された。

2)2008年度の年次大会(9月6日、於同志社大)での講演と2つのシンポジウムについての議論があり、講演は文科省の調査官にお願いすることに決定。また、最初の「教科書」についてのシンポでは、教科書の書き手、編集者、利用者(教員)の三者が討論する形にすること、また次の「関連団体の活動」についてのシンポでは、栗原先生の司会のもとで、消費者教育センターのメンバー、地元の京都で企業家教育にかかわる人、銀行協会などからの推薦者なども考えて進めることとする。時間的には昼に総会を開催し、午後から年次大会とする。なお、理事会は前日5日(金)18:00からの開催となった。

3)経済広報センターが興味を示しているワークショップの開催については、11月26日に岩手で行う予定であるが、それに加えて信州やその他の地域でも開催を考えられないか検討することとなった。

2. 「夏休み経済教室」の準備の一環として、篠原先生がある高校の先生に依頼して「生徒からの質問にどう答えたらいいか:高校で経済を教えるにあたり知りたいこと」を書いてもらった結果が配布された。その中では、特に国際経済で出てくる「購買力平価」、「サービス貿易」、「外貨準備高」などの説明が難しい点が強調されたが、それとの関連で、栗原先生より、日本史で1930年代における旧平価での金解禁の説明が教科書での取り上げ方が不十分なこともあって特に高校の先生には難しいという声があることが紹介された。

3. 「夏休み経済教室」について、中川先生の『「政治・経済」における財政問題』の内容の紹介と議論があった。カバーする内容として「プライマリーバランス」の定義と意味を取り上げるのは、これから教科書に登場するテーマなので重要との指摘があったが、一方でマクロ的な財政政策の効果については、資源配分面や分配面など経済全体の問題との関連にも言及すべきではないかとの意見があり、それらを考慮して講義されるとの発言が中川先生からあった。

4. 「経済問題の見解比較」については、基本的には前回と今回配布された米国での質問事項を多少手直した「宮尾案」を使うこととするが、大阪部会などで出された意見やその他のコメントを考慮して、至急改定版を作成することとなった。さらに回答者の所属や最終学歴での専攻などを選択する(ないし書き込む)ようにして、とりあえず実施することとなった。その上でさらなる展開として、日本の状況により適した問題の設定から始まり、対象者の属性をより詳しく調べて、今後の対策に生かしていくといったステップを取るることとなった。

5. 最後に、「経済教育出前授業:牛井屋売上げアップ大作戦」の実施報告が梅窪氏(経済教育センター)よりあった。実施されたのは6月26日で、埼玉県の(私立)開智学園総合部7年生(中1)の42名が対象。1時限目は講義編で生徒に経済について考えさせることを主眼として、2時限目のゲーム編で実施したが、ゲーム後に振り返る時間がとれなかった。講義をもっと短くして、ゲーム後の振り返りの時間を長くとり、ゲームのねらいや意義を生徒によりよく理解させるべきであったという反省点が指摘された。

(文責:宮尾)

次回開催予定: 9月24日(水)19:00~21:00、日大経済学部3号館4階会議室